

「研究年報」編集委員

- 委員長 平 賀 明 彦 (歴史学)
委 員 秋 山 治 子 (音楽教育・音楽美学)
委 員 多喜乃 亮 介 (心理学)
委 員 久保木 壽 子 (日本文学)
委 員 土 川 洋 子 (看護学)

編集後記

王も官僚もいなかった古代ギリシアでは、政治・祭典・軍事・生産・文化の全てを市民が担わなければならず、そのため市民を全人格的人間へと教育することが目指されたという。そして、とりわけアテナイでは、自由と平等の理想を実現する民主政の担い手としての市民の教育が発達する中で学問・芸術が花開いた。しかも、そこでは市民として生きる技術だけでなく、良く生きることが追求され、さらにアリストテレスが『政治学』で説いたように、単に生きることと良く生きることの差を実現するものが無用の用であることを彼らは知っていた。自由人として良く閑暇を過ごすことの大切さを忘れかけている私たちには二度目のルネサンスが必要なのかも知れない。

(平賀明彦)